

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 工学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 I 「教育の実施体制」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」

次期中期目標・計画では、「アジア諸国との歴史的つながりや地理的近接性を活かした世界的研究・教育拠点として、次の100年に向けて知の新世紀を拓くべく、教育、研究、診療等の諸活動を展開する」ことを掲げ、”英語による教育課程の整備・充実、留学生受入数の増加、外国人教員の増加”を目指している。そのような中で、本学は「留学生30万人計画」実施に向けて、文部科学省が平成21年度から開始する「国際化拠点整備事業（グローバル30）」に全国13大学（国立7、私立6）の一つとして採択され、アジアを代表する世界的研究・教育拠点大学としての機能を強化することを目指すこととなった。

そのため、工学部では英語での教育内容や教育方法の改善に向けて、以下の取り組みを行っている。教育の質向上支援プログラム（EEP）では、教員の英語力向上を図るとともに、その成果を工学部FD等において全教員に公表し、全体のレベルアップを図った。また、国際化拠点整備事業（グローバル30）では、外国人教員を採用し、英語による教育の実施体制の整備を行っている。

取り組み事項	実施主体	実施年度	教育内容・教育方法の改善状況
国際化拠点整備事業（グローバル30）	工学部	平成21年度～	本学は「留学生30万人計画」実施に向けて、文部科学省の「国際化拠点整備事業（グローバル30）」に採択され、アジアを代表する世界的研究・教育拠点大学としての機能の強化を進めている。グローバル30採択を契機に、工学部では農学部とともに全学部在先駆けて、英語だけで学位の取得が可能な国際コースを開設することを表明し、実施に向けて6名の外国人教員が採用され、英語による教育の実施体制が整備された（理系基礎科目、理系コア科目）。
教育の質向上支援プログラム（EEP）	工学府	平成21年度～	本学で公募の「教育の質向上支援プログラム(EEP)」に「国際工学教育環境整備と若手教員の海外研修」の課題で採択され、平成21年度は、①「学外講師による5G=Iセミナーの学内研修」と、②「ハワイ大学マノア校における英語教育海外研修」を実施し、工学部を担当する教員のプレゼンテーション・ディベート等の英語力向上を図るとともに、教材開発と留学生の学習環境を調査し、工学部FDを実施した。